

●NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	<table border="1"> <tr> <td>団体名</td> <td>南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム</td> </tr> <tr> <td>代表者名</td> <td>理事長 愛沢伸雄</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>館山市八幡822</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> <td>0470-22-8271</td> </tr> </table>	団体名	南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム	代表者名	理事長 愛沢伸雄	所在地	館山市八幡822	電話番号	0470-22-8271
団体名	南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム								
代表者名	理事長 愛沢伸雄								
所在地	館山市八幡822								
電話番号	0470-22-8271								
1 事業名	たてやま・地域まるごと博物館 ～海とともに生きるまち～								
2 事業費	1,153,495円 (このうち県の支出 500,000円)								
3 事業期間	2006年7月20日 ～ 2008年2月29日								
4 事業の目的	<p>前年度の採択事業によって深めた調査研究と作成した冊子『海とともに生きるまち』をステップアップし、資料展示や勉強会・ウォーキング等をおこなうことにより、広く市民に普及することを図る。歴史・文化遺産を保全する風土を育み、市民が主役となって“今あるもの”を活かす「地域まるごと博物館（エコミュージアム）」構想の実現を目指す。</p> <p>経済疲弊や少子高齢化等の諸問題に伴って学校の統廃合が進むなか、先人たちの功績や建学の精神を次代に伝え残すことを通じて、地域住民の誇りと連帯感を育み、青少年の健全育成と高齢者の社会参画を促進する。「平和・交流・共生」の精神や知恵を培った先人に学び、支えあうコミュニティの再生を目指すとともに、歴史・文化に基づいた交流文化を育むことによって、国際理解と平和社会の構築に寄与する。</p>								
5 事業概要	<p>① 調査研究・講演会・勉強会</p> <p>② ウォーキング・スタディツアーガイド</p> <p>③ 近代化遺産（大正期の銀行建物）の活用 「小高熹郎記念館～たてやま海辺のまちかど博物館」 企画展示／海辺の知恵袋講座</p> <p>④ 「快鷹丸（かいようまる）」殉難100年記念日韓交流のため渡韓</p>								
6 事業経過	<p>7～2月 知恵袋講座7回開催：市民向け まちなかウォーキング5回：市民向け</p> <p>8月 講演用プロジェクター購入 講演：全国戦争遺跡保存シンポジウム東京大会40名</p> <p>9月 「快鷹丸」遭難100年記念・日韓交流のため渡韓 ハンブル表記の館山紹介パンフレット作成：韓国交流人口100名 講演：館山市観光協会旅館組合婦人部40名</p> <p>10月 総合学習フィールドワークガイド（渋谷幕張学園中学1年160名）</p> <p>11月 地震シンポジウム&ウォーキング（千葉県・富崎小学校と協働）</p> <p>12月 里見氏終焉の地・鳥取県倉吉における里見忠義調査会実施</p> <p>1月 講演「館山のまちづくり」：上毛野文化祭（群馬県庁）</p> <p>2月 遠足史跡めぐりガイド（安房高校1年生266名）</p>								

<p>7 事業成果</p>	<p>■具体的な成果</p> <p>前年採択事業であるガイドブック『海とともに生きるまち』をフィールドワークとして実践。戦争遺跡・里見氏城跡・近代水産業発祥の北下台（ぼっけだい）・まちなか（駅前商店街）各エリアでフィールドワークを地元安房高校と実施。さらに、館山市内でも最も過疎の進む富崎地区で、コミュニティ委員会と小学校と当NPOとの協働で取り組んできた地域活性化事業を、さらに地震・防災をテーマに県教委との協働に発展。コミュニティ再生のモデル事業にもなり得た。</p> <p>歴史的建造物を市民・移住者などの交流の場「小高記念館～たてやま・海辺のまちかど博物館」として再生し、市民を対象とした知恵袋講座を開催。</p> <p>館山ゆかりの「快鷹丸」が朝鮮海域で遭難してから100年目を期し、韓国浦項（ポハン）市に建つ遭難記念碑を参詣。浦項市民らと交流。反日感情の残る韓国で、日本船の記念碑を守り続けている漁師たちの想いを聴き、海に生きる者同士の国境を越えた友情を育んだ。また、2002年に「日韓子ども交流」で館山を訪れた浦項製鉄西初等学校を訪問、同行した館山の母子は再会を果たし、友情を深めた。</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>■直面した課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドスタッフの高齢化（体力の低下、病氣罹患など）。 ・ 観光施策として宣伝発信力の弱さ、地域資源のブランド化。 ・ 市民の生涯学習まちづくり参画への啓蒙と行政からの支援。 <p>■平成19年度以降の事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界に誇るオンリーワンを活かした地域ブランドとして、「八犬伝のふるさと・里見のまち館山」の発信システム構築と、戦国大名里見氏ゆかりの地との「里見トライアングル交流」（群馬県高崎市ー鳥取県倉吉市ー千葉県館山市）の醸成。倉吉における学術調査の報告書作成と報告会。 ・ 市民の憩える海の見える公園（北下台）の再整備を求めるとともに、歴史的建造物の保全や「まちかどミニ博物館」ネットワークを促進して地域資源に磨きをかけ、戦争遺跡や里見氏城跡などと結ぶ「たてやま・地域まるごと博物館」構想の実現。 ・ 地域を紹介する市民ガイドや伝統工芸を継承する人材養成と、それぞれの得意分野を活かした生きがい（社会貢献）の場づくり。 ・ 海路を通じて歴史・文化を共有するアジアの人びととの国際交流。 ・ 統廃合となる県立安房南高校の生徒会が実践してきたアフリカ・ウガンダ共和国のAWA-MINAMI洋裁学校への支援事業。
<p>9 補助金事業の感想等</p>	<p>2年連続の採択で前年事業のステップアップを図り、広く普及するとともに、国内外の市民交流を育むことに貢献できたことを、改めて御礼申し上げます。本補助金は、管理費の経費算入や、他の補助金・助成金との抱き合わせが認められているので、たいへん扱いやすく助かります。できれば、すでに4月から進行している当該年度の事業も遡及して認めていただけると、助かります。</p>